

# 憲法を引き継ぐことは世代を超えたプロジェクトだ

## 「憲法9条を守る新潟県民の集い」で小沢隆一教授が講演

戦争法案に反対する学習講演会が23日、新潟市であり、参加してきました。会場となった県民会館は約1700人で埋まりました。今回の学習会は、正式には、「第4回立憲主義と憲法9条を守る新潟県民の集い」と言います。憲法9条を守る、その1点で様々な団体が力を合わせていますが、すばらしいことです。

呼びかけ人の挨拶は小池加茂市長と上越市の馬場秀幸弁護士でした。このうち馬場弁護士は上越から参加した人たちのことをまず語り、「(安部首相が)日本を取り戻せというなら、まず沖縄を取り戻せ」「過去を見ずして政治は語れない。安部首相の過去を見よう」としない点に危機感を持っている。「アメリカの要請に基づいて

自衛隊をいつでも、地球上のどこかに送ろうとしているが、隊員のリスクは飛躍的に高まる」「国民投票なくしてこのような戦争立法をやるのはクーデターだ。いまが

私たちの踏ん張り時だ」と訴えました。



【エゴノキ】エゴノキ科の落葉小高木。ジシャガウの木とも呼んでいます。花は5月下旬から6月にかけて咲きます。今年はずでに散りはじめています。花は下向きで白、清楚な感じがします。吉川区にて撮影。



上は講演した小澤さんとつどいの参加者

講演会の講師は東京慈恵会医科大学教授の小沢隆一さんです。戦争法案の問題点を今年4月27日に改定した「日米防衛協力のための指針」(ガイドライン)に照らしながら浮き彫りにしました。「ガイドラインは憲法9条はおろか安保条約も踏み越えた本格的な同盟化を図るもの」「平時から緊急事態まで切れ目のない形で

日米同盟を機能させようというのが戦争法案だ」「自衛隊は事実上の戦闘地域で他国軍と一体化して活動することになる」などのべました。最後に、「憲法を引き継ぐことは世代を超えたプロジェクトだ。法案阻止のためにがんばろう」と訴えました。



集いのオープニングでは新潟県音楽九条の会の五十嵐尚子さんがすてきなソプラノで「野バラ」「浜辺の歌」などを聴かせてくださいました。ピアノ伴奏は内田美香さんでした。

歌は勿論でしたが、私は五十嵐さんのスピーチにも感動しました。

五十嵐さんのお父さんは名立、お母さんは東頸城郡の出身だそうです。お父さんがシベリアに抑留されたこと、お母さんは戦時中、台湾へ行かれたことなどを語られました。親が戦争時代の体験として語ったことは、われわれの世代が引き継がなければならないと感じました。

## 行きは歌声、帰りはスピーチ

この日、上越市からも様々な団体、個人が出かけました。総勢100人は超えていると思います。私は高田の人たちがチャーターした大型バスに乗り、参加しました。



このバスは「うたバス」とも呼ばれています。行きは、「折り鶴」「カチューシャ」などを歌い、楽しみました。杉みき子さん作詞、平良木市議作曲の「いのちのメッセージ」も歌いました。

帰りのバスは「うたバス」から講演会の感想や意見、戦争体験談を語り合うバスになりました。「歴史を学び直したい」「あとわずかな人生、子どもたちに平和な国を残して行きたい」「ニュージーランドから子どもや孫たちが来ている。戦争体験を伝えたい」「昭和天皇の放送があった時、がっかりしたのは30分、あとはこれで生きていられる、うれしくなったものだ」など全員が語りました。

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1709 2015.5.31

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第三五七回

## 祝儀袋

母の日のプレゼントは母の日に贈られてこそ価値があると思ひ込んでいました。でも、そうとは限らないんですね。つい先だって、市内に住むT子さんの話を聞いてわかりました。

T子さんはいま、お連れ合いと九一歳になったお連れ合いの父親、T雄さんとの三人暮らしです。私が母の日にケーキを贈ったことをブログ（日記）などで書いたことが契機となり、彼女が体験した一日遅れの母の日のプレゼントについて語ってもらいました。

母の日の前日、T子さんには娘さんからカーネーションが贈られていて、プレゼントはそれで終わりだと思っていたそうです。ところが、母の日の翌日、まさかと思うようなことがあったのです。

T子さんがお昼ご飯を作りはじめたときでした。おじいちゃんのT雄さんが台所まで入ってきて、「昨日が母の日だったんだね。新聞見て分かったよ。オラうちで母と言えばお母さんしかない。いつもありがとう」そう言って頭を下げて祝儀袋を彼女に差し出したのです。T子さんはびっくりすると同時に胸がいっぱいになりました。

三二年間、一緒に暮らしてきたT雄さんがT子さんに母の日のプレゼントを贈ったのは初めてのことでした。祝儀袋の表には「母の日おめでとう」と書かれていて、下の方には「健在 T雄」とありました。袋の中には五千円入っていたそうです。

T子さんから初めて聴いたのですが、T雄さんの人生は波乱万丈でした。T雄さんが小学校一年生のとき、T雄さんの母親は急病で亡くなりました。どういふ事情でそうなったのかわかりませんが、T雄さんの父親は病院で亡くなった妻の骨箱を背中にそって帰ってきたといひます。それはT雄さんの脳裏に焼きつけられました。

母親の代わりに幼いT雄さんを育ててくれたのは父親の妹さん、つまり叔母さんでした。母親のように慕ってきた叔母さんは亡くなる前の一〇年間は寝たきりとなります。T雄さんは叔母さんが亡くなるときはつらくて会えなかつたとのことでした。

T雄さんのお兄さんは戦地から無事帰ってきたものの、一年足らずで亡くなります。T雄さんは亡くなったお兄さんのお連れ合いだったKさんと再婚しました。いわゆる「おじなおり」です。Kさんは四歳年上の女性でした。

Kさんは八〇代後半になってから要介護状態になります。T子さんはKさんの世話をするために勤めをやめました。おじいちゃんのT雄さんは、「ばあちゃんのために仕事をやめさせることになって申し訳ない」と何度も言ってくれたといひます。

そのKさんも二年前の秋に亡くなりました。Kさんが亡くなったときもT子さんはT雄さんのひと言に感動しました。T雄さんは五人の子どもさんたちを集め、「みんなも遠くから足を運んでばあちゃんの面倒を見てくれたが、一番、世話をしてくれたのはうちの母ちゃんだ」と感謝の言葉をのべてくれたといひます。T子さんはこのときも胸が熱くなったといひます。

母の日のプレゼントをめぐる話をT子さんから聴いたのは頸城区にある大池のキャンプ場でした。この日は晴天でした。小型ヨットを遠隔操縦して遊ぶ、炊事場で料理をするなど、野外活動を楽しむ若い人たちが賑わっていました。

T子さんの話を聴き終わったとき、耳に入ってきたのは春ゼミの鳴き声です。「いっぱい鳴いているね」と言っつてT子さんの顔を見たら、気のせいか、涙を流したあとの顔のように見えました。やさしいお母さんなんですね、T子さんは。



## 野の花などを描いた 天井画に感動

糸魚川市能生の西運寺へ20日、行ってきました。じつは、にいがた自治体研究所で上南地区の地域づくり研修と西運寺坊守の楠愛さんの「野の花講演」を企画していたのですが、研究所側の都合で取り止めになってしまいました。特に講演を楽しみにしていたので、あきらめきれず、独自に訪問させてもらったというわけです。

楠愛さんは日本画家であり、このお寺本堂の天井に花などのまるい絵を描かれたことで話題になった人です。思っていた通り、素晴らしい天井画でした。お寺の近くにある花、木の実などが丸く描かれていました。柿の実やムラサキシキブの実まで描かれていたのにはびっくりしました。愛さんはとても若い人で、親近感が持てました。

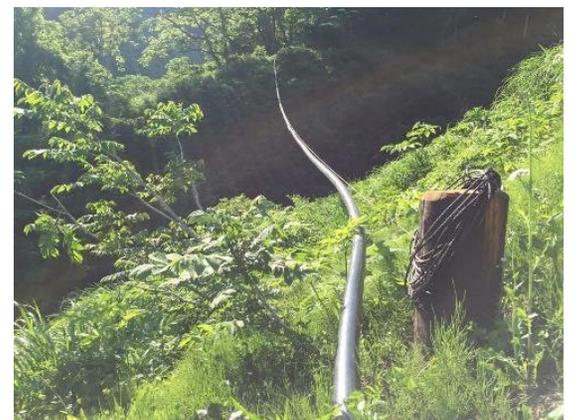
## 10周年事業に向け基金

県立吉川高等特別支援学校後援会の理事会、総会が21日、同

校で行われました。

同校の知名度も徐々に上がり、今年度は新入生が20人入ってくれました。後援会の会費も思っていた以上に集まってきています。総会では10周年記念事業の取組を成功させるために毎年10万円ずつの積み立てることも提案され、承認されました。

私は、現職議員でなくなったことから、今回で後援会顧問をおりることになりました。これからは、これまで同様、私なりの方法で同校を応援していきます。



【谷をわたる農業用水】市内の田んぼでの田植えは終わりに近づいています。写真は農業用水をホースをつかって引いているところです。大島区旭地区にて22日、撮影しました。

## 上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月20日(水)	5月27日(水)
上越南消防署	0.053	0.046
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.053	0.047
東頸消防署	0.040	0.047
高士分遣所	0.047	0.053
名立分遣所	0.057	0.056